

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 28 年 4 月



南蒲原郡田上町 桃畑

基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます



Contents

院長あいさつ
新任のあいさつ
レインポープラザは移転しました
緩和ケアセンターご紹介
乳腺超音波検査 研修開始のご紹介
肺がんセミナーを開催しました
ホームページをリニューアルしました
平成 28 年 4 月外来診療予定表

院長あいさつ

「がんの地域包括ケア」



新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭

いつも新潟県立がんセンター新潟病院の診療にご協力をいただき、ありがとうございます。

当院は2015年に公益財団法人日本医療機能評価機構の更新を受審し、主として二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院としての認定を取得できました。今後も更なる質の向上のために取り組みたいと考えております。

さて、2016年度診療報酬改定が行われましたが、2020年の財政健全化を実現するため、医療費を含む社会保障費は大きく制限され、実質的には大幅なマイナス改定でした。

急性期医療を担う7対1入院基本料算定の施設に対しては、密度の高い医療を提供しているかを評価するために、重症度、医療・看護の必要度が見直されています。高度急性期医療も長期的には欧米の基準に近づくように、医療機関の集約化を目指していると思われます。また、慢性期医療においても在宅への誘導が図られています。

今回の改定のもうひとつの柱が地域包括ケアの推進です。団塊の世代が75歳以上となる2025年までに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムを実現していくというものであります。

がんは高齢者に多い病気なので、社会の高齢化に伴ってがんに罹患する人、がんで亡くなる人の数は増加していきます。国民の2人に1人はがんに罹患する状況はまだまだ続くものと思われます。

近年、がん化学療法は悪心・嘔吐などの副作用を予防する薬剤や、好中球減少症を早期に治療できる薬剤など、支持療法が進歩しています。当院の外来化学療法の件数は年々増加し、2015年度に外来化学療法室を増床したこともあり年間8,792件で、1日あたり約36件となりました。仕事や自宅での生活を継続し、外来通院しながら安全に施行できるようになってきています。

また、従来、急性期治療を終えて病状が安定すると退院となりますが、高齢のがん患者さんなどではスムーズに退院できないことがあります。自宅や施設に帰るのが不安な場合や、もうしばらく入院を継続し経過観察や看護、リハビリを行うことで状態の改善が見込める場合などです。そこで当院では、患者さんが自宅や施設へ安心して帰ることができるように支援する地域包括ケア病棟を2016年秋までに開設する予定です。

急性期の高度で先進的ながん治療を充実させる一方で、がん患者さんの病態に応じて地域の医療・介護との連携を一層図りたいと思います。当院はがんを知り、がんと向き合い、がんを負けることのない社会の実現を目指します。

2016年度中には地域医療構想の策定、また新潟県病院事業の取組方針の改定が行われます。新潟県内の病院スタッフの研修、教育、後方支援などにおいて力を尽くすべく、当院の将来のあり方を検討したいと思います。

信頼していただける、より一層良質ながん医療を提供し続けるため、精一杯努力してまいります。先生方のご指導とご支援を今後ともお願い申し上げます。



新任のあいさつ

副院長 関 裕史



この度、新潟県立がんセンター新潟病院副院長を拝命いたしました、放射線診断科の関 裕史です。私は、放射線科医師として、画像診断業務、Interventional Radiology (IVR、画像下治療)を専門に、がん診療に携わって参りました。

近年の画像診断機器の進歩にはめざましいものがあり、マルチスライス CT や PET-CT などにより、3次元画像評価や機能解析が広く臨床活用される時代となりました。がん治療の分野においても、画像診断は、病巣の早期発見や病変の広がり診断、術前シミュレーション、治療効果判定、再発診断などに威力を発揮しています。今後も、放射線診断医の立場から、当院の画像診断精度を高め、がん治療成績の向上に寄与して参りますとともに、日頃よりご協力をいただいております連携施設の先生方に、有益な画像診断情報を提供してゆける病院であるよう努めて参ります。

画像診断技術は、診断の領域を超えて、直接的に治療にも応用されています。いわゆる IVR と呼ばれる分野で、経カテーテル的治療はその代表格です。がん診療においては、血管造影下に腫瘍の栄養血管を介して塞栓療法や動注化学療法が行われ、強力な腫瘍縮小効果を発揮します。緩和医療にも IVR が活用されます。縦隔腫瘍による上大静脈症候群に対する上大静脈ステント留置術や、放射線治療抵抗性の有痛性骨転移に対する動脈塞栓術や椎体形成術など、速やかな症状緩和に役立ちます。闘病生活を送られているがん患者の方に、当施設の特徴を活かした様々な治療の機会を提供して参りたいと思います。

近年、少子高齢化が進み、医療費や社会保障制度の問題が大きく取り上げられています。かかりつけ医から専門病院までが、それぞれの医療機能を連携することが求められる時代を迎えています。様々な診療科の先生方との連携を通じて診療を行って参りました「放射線科医の眼」を通して、当院の医療機能を提供できるよう、微力ながら努めて参りたいと思います。宜しくお願い致します。



事務長 水沢 清隆



日ごろより地域の医療機関の皆様には大変お世話になっており、心より感謝申し上げます。本年4月、事務長に着任しました水沢と申します。どうぞよろしくお願い致します。

3月までは、新潟県企業局において、電気事業(水力発電所等で発電し、電力会社へ供給)、工業用水道事業(工業用水を作り企業へ供給)、工業用地造成事業(産業団地を整備し、企業へ分譲)に従事し、利用者から信頼される事業運営を目指して取り組んできたところです。

4月からは、県立がんセンター新潟病院に配属されました。職員の1人として、当病院のミッションである「県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供する」こと、及び信頼される病院を目指して、お役に立てるよう努めて参ります。

また、日ごろから当院との連携におきまして、円滑な患者さんの受け入れ対応が行われていることは、地域の病院、医院の先生、医療スタッフの皆様の皆様のお蔭であると改めて感謝申し上げます。

当院で治療を終えた患者さんの退院時においては、在宅医療への支援やニーズに応じた施設、病院を紹介する必要があります。そのためには、今まで以上に地域の医療機関との情報共有が重要となるため、医療連携は最重要課題となっております。「顔の見える連携」は、より良い医療連携を築く最善の手段と感じております。

今後とも、当院との医療連携とともに、地域連携のあり方につきましても、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたく、一層のご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後となりますが、地域医療を担う皆様の益々のご発展をお祈りして、挨拶とさせていただきます。



看護部長 内藤 綾子



日頃から、当院の地域連携事業にご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

この度、看護部長に着任いたしました内藤と申します。どうぞよろしくお願い致します。

国は2025年問題から、可能な限り住み慣れた地域で自分らしさを人生の最後まで続けることができるように、地域の包括的な支援、サービス提供体制作りを推進しています。このサービスを充実していくには多様な事業主体による重層的な支援体制を構築していくことが求められ、地域の医療機関、福祉保健機関、介護福祉機関等の横のつながりが一層重要になると思われます。

当院も地域連携・相談支援センターを移設し「レインボープラザ」と命名して病院の連携窓口及び調整部門を強化し、ご紹介頂いた患者さんに必要な治療等を安心して受けただけのよう支援していきたいと考えております。また、都道府県がん診療連携拠点病院としてがん相談支援を行っています。昨年度より設置した緩和ケアセンターを拡充し、医療福祉相談やがん相談、転院や、職場・学校に関することも専門の相談員が対応できるように強化いたしました。

看護部は「がんと共に暮らす患者・家族に対して、その人らしさを大切にした最善のがん看護を提供します」という理念のもと、高い倫理観をもち、知識・技術の向上に取り組み実践できるよう努めてまいります。



がんセンター正面玄関前花壇

「レインボープラザ」は移転しました

レインボープラザ 副センター長 長岡 敦子

地域連携・相談支援センター「レインボープラザ」は、3月7日に1階の旧外来化学療法室に移転しました。また、4月に2名のMSWと5月に1名の退院調整看護師が加わり、総勢15名となりました。

昨年度は、円滑な病診連携を目指して病診予約を増枠し、「外来予約FAX申込書」を簡略化させて頂きました。今年度も、かかりつけ医の先生方や地域医療機関の皆様との連携により、患者さんの日常生活の質を保ちながら継続した医療が受けられるよう、スタッフ一同努めて参ります。



MSW 西潟 幸江

4月から地域連携・相談支援センターに配属になりました西潟と申します。地域連携部門を担当します。地域の医療機関や在宅療養の事業所と連携を取り、患者さんが安心して療養生活を送れるよう尽力してまいりたいと思います。

慌てん坊で粗忽ものですので、ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。



MSW 布施 紗希子

4月より地域連携・相談支援センターに配属になりました、MSWの布施紗希子と申します。当院では、東5病棟と西5病棟を担当させていただくこととなりました。患者さんの気持ちに寄り添うことを大切に、仕事に励んで参りたいと思っております。分からないことだらけで、皆さんにご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンター ゼネラルマネージャー 船見 恵美子

当院に通院中の患者さんやそのご家族に、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛に対する緩和ケアを提供する「緩和ケア科外来」「緩和ケアチーム」

「緊急緩和ケア病床」を統括するセンターです。

レインボープラザ（地域連携・相談支援センター）と同じフロアーにあり、密に連携しています。

なお、緊急緩和ケア病床は現在整備中ですので、準備が整い次第皆さまにご連絡いたします。



次号に続きます

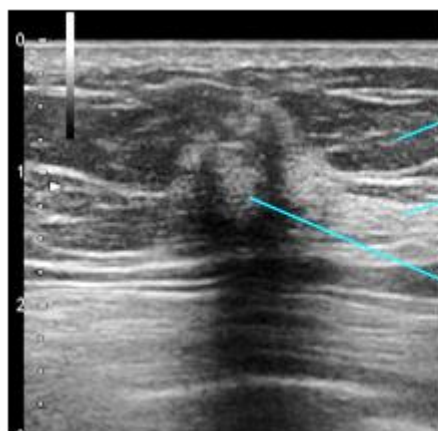
乳腺超音波検査 研修開始のご紹介

臨床検査(乳腺外科) 小柳 敬子

人口の高齢化により、がん罹患数は男女とも1985年以降増加し続けています。国立研究開発法人 国立がん研究センターの最新がん統計によると、2011年に新たに診断されたがん(罹患全国推計値)は男性496,304例、女性355,233例、計851,537例で、罹患数が最も多い部位は女性では乳癌でした。

乳腺超音波検査は、主に乳癌検診における精密検査時の質的診断に用いられますが、検査担当者の主観が検査結果に影響を与えるという性質があり、乳腺疾患の超音波画像は多様性に富むことから、症例経験が乏しいと正確に診断することが難しいと言われています。またマンモグラフィ検査とは違い俯瞰的な検査ではないため、存在診断においてもその精度は担当者の技量によって左右されるとも言われています。

そこでがんセンターでは、乳癌を見る機会の少ない技師を対象とした乳腺超音波検査の研修受入れを開始いたしました。知識と技術の向上を目標に乳腺外科の医師および超音波検査士がマンツーマンで指導を行います。



皮下脂肪

正常乳腺

乳がん



研修日数は、予防総合センターの乳腺外科外来診察日である火曜から金曜の連続する2週間、計8日間を基本とし、研修内容は自施設で乳腺超音波検査を開始するための基本的な技量の習得、カテゴリー分類のための診断樹の学習、代表的な疾患の画像の特徴を理解し推定疾患を導きだす練習や、すでに乳腺超音波検査を行っている技師のスキルアップなどを行う予定です。

県内の医療施設におけるより良い診療の提供にご協力したいと考えております。研修案内の希望や申し込みなど、詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先 新潟県立がんセンター 臨床検査(乳腺外科) 小柳 敬子
E-mail:oyanagi@niigata-cc.jp



おしらせ

肺がんセミナーを開催しました

3月17日坂井輪地区公民館で、第1回新潟県立がんセンター新潟病院肺がんセミナーが行われました。呼吸器内科田中臨床部長・樋浦内科部長・三浦内科部長の3名により、「肺がんが疑われたらどうすればよいのか」「肺がんの抗がん剤治療」「新しい肺がん治療」について講演がありました。地域の医療機関の方や地域の住民の方に多数ご参加をいただきました。今後も、皆様にご参加いただけるセミナーを開催して参りますので、よろしくお願いいたします。



ホームページをリニューアルしました

平成28年4月より当院のホームページを全面的にリニューアルしました。ゆとりを持ったレイアウトで見やすい構成になっており、タブレットやスマートフォンでも快適に閲覧頂けます。地域医療連携についてはこれまで通りトップページにバナーを設けていますので、引き続きご利用をよろしくお願いいたします。

(当院ホームページのアドレス：<http://www.niigata-cc.jp>)



新潟県立がんセンター新潟病院 平成28年5月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜Cは新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 移植外来(4週)	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 安住 基	A 佐々木 俊哉	A 塩路 和彦	C 川合 暢(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 田中 洋史		B 樋浦 徹		B 庄子 聡
	新患 (2診体制)	A 成澤 林太郎 A 佐々木 俊哉 B 三浦 理 F 谷 長行	A 青柳 智也 B 小山 建一 D 石黒 卓朗 D 栗原 太郎	A 安住 基 B 田中 洋史 D 今井 洋介 E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸 B 庄子 聡 C 大倉 裕二 D 廣瀬 貴之	A 塩路 和彦 A 栗田 聡 B 樋浦 徹 D 張 高明
*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医についてはお問い合わせください。						
A: 消化器 B: 呼吸器 C: 循環器 D: 血液 E: 内分泌 F: 糖尿病						
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	細貝 亮介	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診				専門外来(11:00~ 2週は移植外来)	細貝 亮介
乳腺外科 消化器外科	1 診	佐藤 信昭(乳腺)	藪崎 裕(胃)	土屋 嘉昭(肝胆脾)	中川 悟(食道・胃)	瀧井 康公(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆脾)	番場 竹生(食道・胃)	丸山 聡(大腸)
	3 診	長谷川 美樹(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	森岡 伸浩(食道・胃)	野上 仁(大腸)
	4 診	庭野 稔之	上原 拓明	勝見/相馬 [交替]	藪崎 裕(再診)	山田/八木 [交替]
	予防センター-乳腺		金子 耕司	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林/長谷川 [交替]
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器外科	1 診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英	青木 正	吉谷 克雄
	2 診	鳥羽 麻友子	岡田 英			岡田 英
*水曜日は新患の対応はできません。						
整形外科	新患	畠野/佐々木[交替]	畠野 宏史	小林 宏人	佐々木 太郎	
	再来	小林 宏人	佐々木 太郎	予約制	畠野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
神経内科(新潟大学より)		堅田 慎一		二宮 格		
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫 (4週の後)
婦人科	1 診	笹川 基	菊池 朗	笹川 基	柳瀬 徹	笹川 基
	2 診	柳瀬 徹	谷地田 希	菊池 朗	菊池 朗	谷地田 希
皮膚科	1 診 (主に新患)	高塚 純子	酒井 あかり	竹之内 辰也	鹿兒山 浩	高塚(1,3,5週) 酒井(2,4週)
	2 診 (主に再来)	酒井 あかり	竹之内 辰也	酒井(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩	鹿兒山 浩	酒井 あかり	鹿兒山 浩
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	武田 啓介	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	石川 晶子	小林 和博	石川 晶子	武田 啓介
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎	太田 久幸		佐藤 雄一郎	
	2 診	正道 隆介	正道 隆介		太田 久幸	
	3 診	太田/廣川	佐藤/廣川		正道/廣川	廣川 幸二郎
放射線治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	松本 康男	松本 康男
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	杉田 公	杉田 公
	3 診	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本
*木曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1 診	富田 美佐緒	丸山 洋一	富田 美佐緒	丸山 洋一	富田 美佐緒
	2 診	渋江 智栄子	富田 美佐緒	渋江 智栄子	富田 美佐緒	渋江 智栄子
	術前		高田 俊和		高田 俊和	高田 俊和
形成外科				坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	午前	本間 英之	本間 英之		本間 英之	本間 英之
	午後	本間 英之	本間 英之	本間(14:30~16:00)	本間 英之	本間 英之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話:025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます